



国際姉妹都市タイラー市へ親善訪問団を派遣

本市とアメリカ合衆国タイラー市は、平成4年に姉妹都市提携を結び、親善訪問団による交流を続けています。3月25日から31日まで本市の親善訪問団がタイラー市を訪問しました。これまでの歩み、今回の訪問の報告や感想などを紹介します。お問い合わせは、シティプロモーション課☎421-6703へ。



▲市長表敬訪問ではタイラー市の皆さんと記念撮影も

これまでの歩み

市は、平成4年の市制施行25周年記念事業の一環として、タイラー市と姉妹都市提携を行うことを決め、同年5月にタイラー市のローズガーデンで、8月には八千代市の市民会館で調印式を行いました。これまで八千代市からは12回、タイラー市からは10回の親善訪問団がそれぞれの市を訪問しています。ほかにも、八千代少年少女合唱団がタイラー市を訪問したり、タイラー市選抜サッカーチームを「コミュニティワールドカップサッカー in 八千代」へ受け入れたりしてきました。

令和元年度にタイラー市を訪問して以降、コロナ過により交流は休止していましたが、今回約6年ぶり13回目となるタイラー市への訪問となりました。

市民交流で両市の絆を深めました

今回、市民を中心とした15人の親善訪問団がタイラー市を訪問。以下に訪問団が感じたことなどを紹介します。

現地では、市長表敬訪問を始め、公共施設の見学や文化体験を行いました。公共施設見学では、高齢者が集まって交流できる「シニアセンター」を訪問し、高齢者向けの運動プログラムや料理プログラムの説明を受けました。アメリカには公的な保険制度がないため、高齢者が交流できる場所が非常に重要であると分かりました。テキサス大学タイラー校を

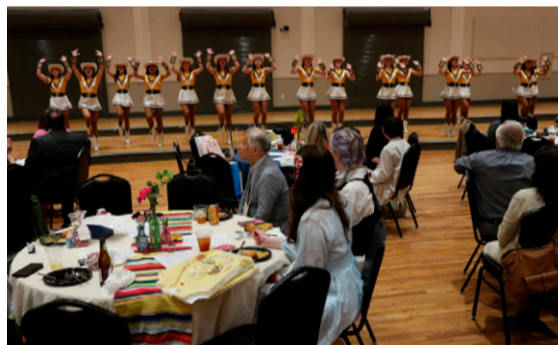


▲タイラー市役所への表敬訪問では、日本とアメリカの国旗を振って温かく出迎えてくれました

訪問した際には、本市と大学とのこれまでの交流が分かる展示室があり、本市との交流を大切にしてくれていることが感じられ、訪問団一同、感激しました。

また、「つつじ」が見事に咲き揃っている邸宅を訪問し、家の構造の違いなど日本とアメリカの文化の違いに気づくことができました。本市の木でもある「つつじ」をきっかけに自然と会話が弾み、両市の共通点が多いことを改めて知ることもできました。

最終日の「さよならパーティー」ではアメリカ人にとっても聞き馴染みのある「上を向いて歩こう」をピアノ伴奏で日本語と英語で歌いながら、最後の別れを惜しむとともに、両市のつながりの深さを改めて実感することができました。



▲さよならパーティーで、チアリーダーチーム「アパッチベルズ」の見事な演技を鑑賞しました

また、今回の訪問中、長くこの交流事業の通訳としてご尽力いただいた、故トニー・タダサさんの活躍を称え、タイラー市側が設置した記念ベンチの除幕式も行われ、このような交流が継続できていることはさまざまな人の支えがあってこそと改めて感じました。タイラー姉妹都市委員会のジェニファーさんから「お互いの相違点ではなく、共通点に目を向けよう。そうすれば理解し合える」との言葉がありました。言語も生活習慣も違う日本人とアメリカ人が互いの文化を尊重し、互いの絆をさらに深めることができました。

草の根交流の大切さを実感

今回、訪問団として参加した人たちからは「タイラー市とのつながりを感じたことで遠い親戚ができたような感覚になり、この交流を途絶えさせてはいけないという強い使命感を感じた」「このような市民同士の草の根交流は国際平和の基礎となることを実感した。この経験を多くの市民に届けなければならない」など、今後も姉妹都市交流を大切にしていきたいとの感想が多く聞かれました。

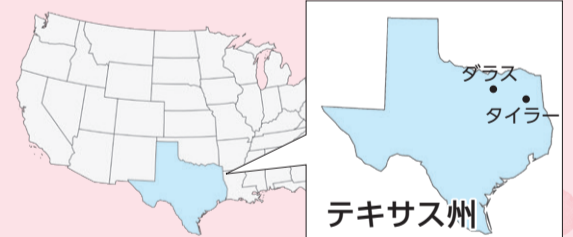
9年度には、タイラー市の親善訪問団が本市を訪れる予定です。その際は、市民の皆さんのご協力をお願いします。

タイラー市ってどんなところ？

タイラー市は、アメリカ合衆国で2番目に大きいテキサス州の北東部に位置しています。日本との時差は14時間。人口は約10万5,000人で八千代市の半分ほどですが、面積は約3倍の148.1平方キロメートルあります。

有数のバラの産地で「バラの都」と言われており、その生産量はアメリカ国内の3分の1にもなります。ダウンタウンの西にあるローズ・ガーデンは全米最大級のバラ

アメリカ合衆国



園です。5万6,600平方メートルの敷地に、約550種、3万8,000株以上のバラを栽培しています。八千代市にもバラ園があり、バラが取り持つ縁で交流が深まっています。

広告

広告